

❀会員からのメッセージ❀

会員総会の際の委任状に添えて、様々なコメントが寄せられました。
活動の励みになるメッセージや興味深い本の数々をご紹介します。



最近読んだ／読んでる本は

『月夜の森の梟』小池真理子著

『人体大全』ビル・ブライソン著

家の改装工事が続き、なかなか読み進められませんが、とても興味深い2冊です。

(K.E.)

TOTOMO さんのご活動には、個人的ですが励まされています。
2021 年度は、大竹英洋さんの著作に心打たれました。

(M.T.)

○湘南邸園文化祭「間島弟彦生誕 150 年 間島夫妻の事跡を辿る」は充実した内容の催しだったようで、参加できませんでしたが良かったですね。文化祭の良いプログラムの1つとして記録されることと思います。

○再読も含めて、この半年の中で読んで良かったもの

『暁の宇品』堀川恵子著

『偽装同盟』『抵抗都市』佐々木譲著

『原爆スラムと呼ばれたまち ひろしま・基町相生通り』石丸紀興他

『中国史とつなげて学ぶ日本全史』岡本隆司著

『文明としての江戸システム』鬼頭宏著

『日米地位協定』山本章子著

『間宮林蔵』吉村昭著

(T.S.)

逗子の会はずっと休会中で、30 回以上行ってきた古本リサイクル市もできず残念です。おはなし会への参加は、逗子市立図書館が早く着手しましたので「すばなしの会」として月 1 回ボランティアで語りに行っています。学校は残念ながら再開されていません。今の期間に長いおはなしにチャレンジしています。個人的には去年はオリ・パラのシティキャストとしてボランティアに登録していました。羽田空港で行うシフトでしたが、あのようなことになり、それでもリモートで参加しました。

今読んでる本は、パラリアンの木村敬一さんの『闇を泳ぐ』と『真珠湾攻撃総隊長の回想』です。去年はパールハーバーから丸 80 年だったので朝日新聞で紹介されていました。なかなか興味深いです。

(N.T.)

会発足時、鎌倉図書館の資料の乏しさにもう少し何とかならないものかと入会させていただきました。皆様の活動が文字通り「図書館とともだち」といえる、図書館と市民の距離を縮め、又、共に歩んでいることを実感できるようになりました。皆様の努力に深く感謝申し上げます。

コロナ禍でNPOの活動も休止状態で、ゆっくり本を読む時間を与えてくれました。

河口慧海著『チベット旅行記』、関野吉晴著『グレートジャーニー』、

井上ひさし著『四千万歩の男』、小松義夫著『地球生活記』等。

日本や世界の人々を知り、力をもらう機会を得ています。調べものは児童書によいものがあるのでよく利用しています。

(R.O.)

コロナワクチンは接種しないので、絶対感染しないように必要最低限の他人様とのかかわりになっています。それがスーパーでレジ・会計してくれる人と図書館の司書さん。どちらも1分程度のやりとりですが、ありがたい限りです。

電車も危ないと思いますが自転車を買ったので、風のなか感染の心配なく移動できるようになりました。平塚市美術館へは1.5時間、神奈川県立美術館葉山へは1時間です。駅まで歩くまわり道がなくなり、自転車はいろんな目的地がドアツードアでつながり近くなります。これからあちこちの図書館にも寄ってみようと思っています。

『新型コロナワクチン その実像と問題点』（天笠 啓祐著 緑風出版 2021年）

(M.A.)

昨年からは、図書館で調べ方についてのチラシやクイズを作っています。

休日には、まちライブラリーで司書あいあいと名のつて、ミニ講座を1～2ヶ月に一度やっています。

これからも、本に出合える講座などをしていく予定です。

(I.I.)

※このコメントと一緒に、クイズや講座資料もお送りいただきました。

ご覧になりたい方は、事務局までお申し出ください。

読書会のテーマ本は私の良い指針です。

いつもありがとうございます。

(A.F.)



♪これからも、みなさんのお声を聞かせてください。お待ちしております♪